

フードバンク活動による食品ロス削減

～大学生のみどり戦略～

【大学生の自発的な取組】

みどりの食料システム戦略が目指す「持続可能な食料システムの構築」に向けて、食品ロス削減は重要なテーマです。

別府市の立命館アジア太平洋大学では、有志の学生たちが、食品ロスの削減に向けた活動を行う団体を立ち上げました。

サステナビリティ観光学部2年生の小溝柊汰さんが中心となり「APUフードパントリー彩鳥（いどり）」を令和5年11月に発足、現在は20名の学生が活動しています。



〔提供された食品〕

【地域や学内での食品配布活動】

これまでの主な活動は、フードバンクなどから無償で提供された寄付食品や防災備蓄食品などを、同市亀川地域や大学内で、必要とする人に直接配布する「フードパントリー」でした。

立ち上げからの9か月間で既に5.4トンの食品を配布し、目標の年間3トンを大幅に上回っています。

【食品管理の徹底】

団体の活動目標は食品ロス削減ですが、より多くの人々に日本の食品ロスの現状に問題意識をもっていただくことを意識した活動です。

食品提供元の開拓、食品の発注、運搬の手配、倉庫や配布場所の確保など、活動に関わるすべてを学生が手配し、食品の管理・検品の徹底、トレーサビリティを重視し、食品提供元と参加者双方に配慮した、安全な運営に努めています。



〔フードパントリー活動（上：地域 下：大学内）〕



【今後に向けて】

専門家を招いた講演会や、県外のフードバンクの視察なども行いながら活動の高度化を進めています。

令和6年11月には、新たに「フードバンク」の取組を開始し、団体名も「フードバンク彩鳥」と改名しました。

同年12月には、多くの方に食品ロス問題について考える機会を提供していることが評価され、「気候変動アクション環境大臣表彰」において「ユース・アワード」を受賞しました。

大学生の熱意ある取組に、さらなる活躍が期待されます。



〔専門家を招いた講演会〕

〔連絡先：フードバンク彩鳥 apuirodori@gmail.com〕

令和6年12月現在